

平成 28 年 9 月台風第 16 号における

なかすじがわ

中筋川の治水効果について

～堤防及び中筋川ダムにより氾濫を防止～

- 台風第 16 号の豪雨により、中筋川では基準地点の磯ノ川^{いそのかわ}水位観測所で計画高水位 (8.37m) を超過する洪水となり、最高水位は戦後第 2 位 (8.85m) を記録しました。
- 中筋川では、これまでの治水事業により、堤防が概成するとともに中筋川ダムが完成しており、計画高水位を超過したものの、川が溢れること (越水) による浸水被害や堤防決壊を防止することができました。
- 中筋川ダムで最大流入量 (毎秒約 351 立方メートル) の約 84% をダムに貯め、ダムからの放流量を毎秒約 56 立方メートルに低減することにより、基準地点の磯ノ川水位観測所の水位を約 125cm 低減させ、川が溢れること (越水) による堤防決壊を防止しました。
建設中の横瀬川^{よこぜがわ}ダムが完成していた場合は、さらに約 60cm の水位低減効果が期待でき、堤防の安全性が確保される計画高水位以下にすることができます。
- また、中筋川左岸楠島^{くすしま}箇所や有岡^{ありおか}地区等において内水による浸水被害が発生しており、被害状況は調査中ですが、内水被害を軽減するため、排水機場や排水ポンプ車により排水作業を実施しました。

本発表は、四国圏広域地方計画広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

平成 28 年 9 月 20 日

国土交通省四国地方整備局

中村河川国道事務所、中筋川総合開発工事事務所

問 い 合 わ せ 先

◆中筋川に関する問い合わせ
国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
電話(0880)34-7301

副所長	香川 正好	内線(204)
◎計画課長	黒田 稔生	内線(261)

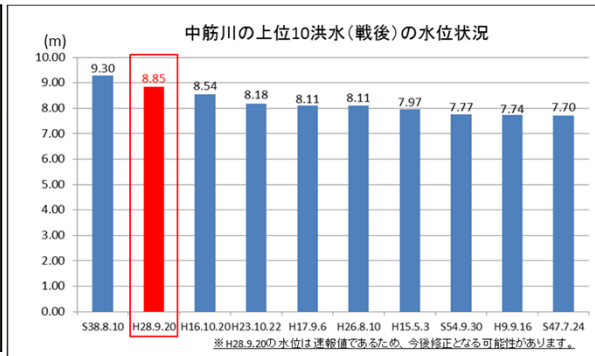
◆中筋川ダムに関する問い合わせ
国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所
電話(0880)66-0142

副所長	坂本 雄彦	内線(204)
◎調査設計課長	宮地 正彦	内線(351)
管理課長	江口 正則	内線(6121)

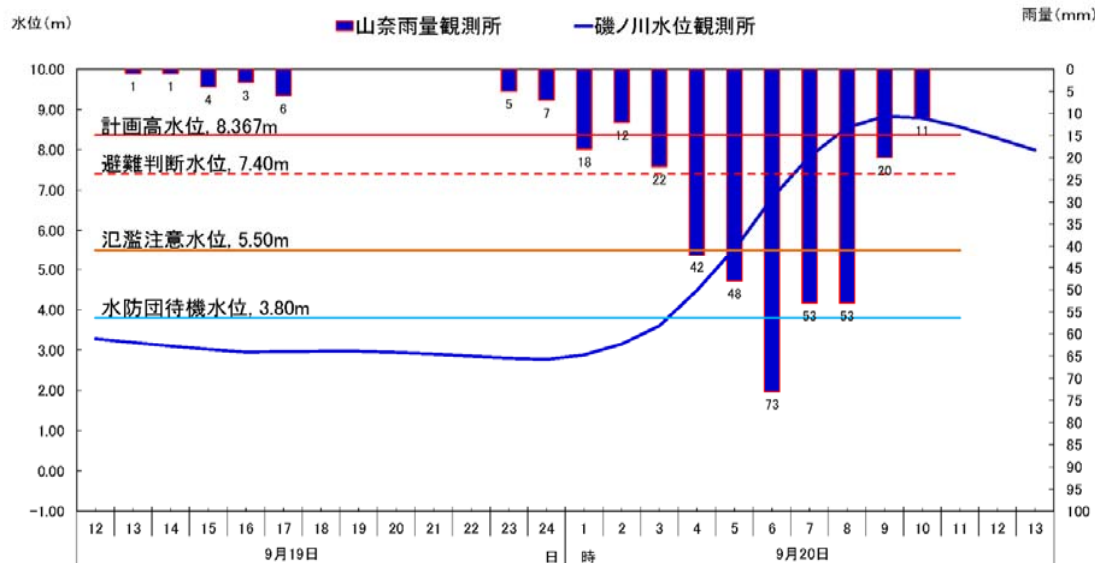
◎主な問い合わせ先

平成28年9月台風第16号における治水効果（渡川水系中筋川）

- 平成28年9月台風第16号洪水では、中筋川山奈雨量観測所^{やまな}における降り始めからの総雨量が423mmを記録し、四万十川の右支川中筋川では基準地点の磯ノ川^{しまんとがわ}水位観測所で戦後第2位（8.85m〔速報値〕）を記録。（なお、左支川後川^{うしろがわ}では、基準地点の秋田水位観測所で戦後第4位（6.86m〔速報値〕）を記録。）
- 中筋川では、これまでの治水事業により、堤防が概成するとともに中筋川ダムが完成しており、計画高水位（8.37m）を超過したものの、川が溢れること（越水）による浸水被害を防止することができた。
- 中筋川沿川では、楠島地区や有岡地区等において内水による浸水被害が発生しており、現在、被害状況を調査中であるが、中村河川国道事務所は、楠島箇所^{しみず}（清水樋門）に排水ポンプ車1台（150m³/min）を配備し緊急排水活動を実施（約1.4万m³を排水）。また、有岡排水機場及び楠島排水機場を稼働させ排水を実施（有岡で約14.4万m³、楠島で約9.8万m³を排水）。



平成28年9月台風第16号洪水の雨量・水位



中筋川・磯ノ川水位観測所地点(9月20日10:30)



有岡箇所(中筋川)での四万十市消防団中村方面隊中筋分団による水防活動状況[土のう積み工]

平成28年9月台風第16号における治水効果 ～中筋川ダムにより越水による堤防決壊を回避～

425mm(時間最大85mm)の雨

中筋川ダム上流域において、9月18日22時～9月20日10時にかけて **累計約425mm** (時間最大85mm)の降雨となりました。

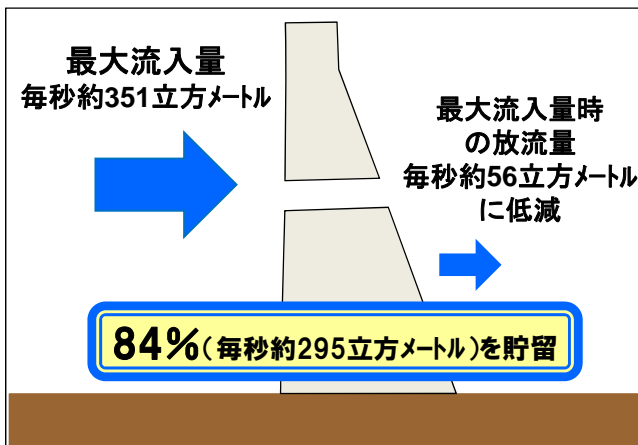
中筋川ダムにより84%を貯留

中筋川ダムへの最大流入量**毎秒約351立方メートル**の84%を貯留し、ダムからの放流量を**毎秒約56立方メートル**に低減しました。

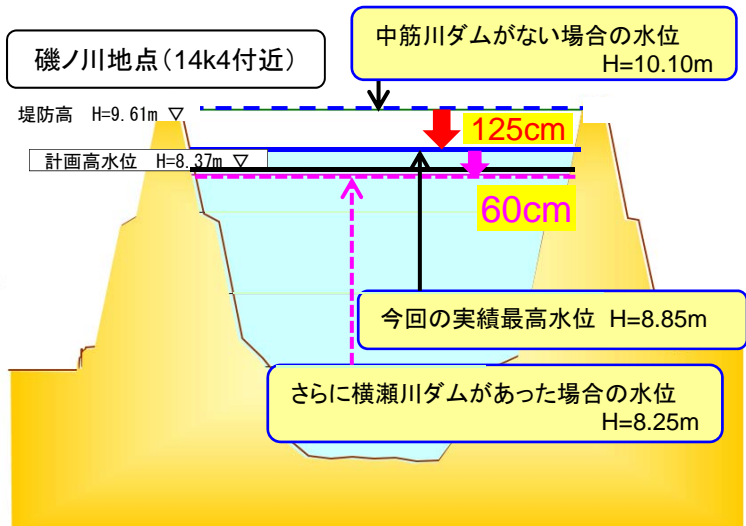
この流入量は平成11年4月のダム運用開始以降**最大**となります。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平23四複、第84号)を一部転記したものである。



中筋川ダムの防災操作状況
(9月20日 9時00分)



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。

中筋川ダムにより河川水位を約125cm低減

中筋川ダムが無かった場合は、堤防を約50cm越水していたと推測されます。中筋川ダムの防災操作により、**磯ノ川地点で約125cm水位低減させ**、これにより**越水による堤防決壊を回避**しました。

横瀬川ダムにより更に約60cm低減

建設中の横瀬川ダムが完成していた場合は**さらに約60cmの水位低減効果**が期待でき、これにより水位を**堤防の安全性が確保される計画高水位以下**にすることができ
ます。



磯ノ川地点(9月20日9時撮影)

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成28年9月台風第16号における治水効果 ～中筋川ダムにより越水による堤防決壊を回避～

中筋川ダムの防災操作後の貯水位 約 $H=86.1\text{m}$

(9月20日12時50分)



約4,800千 m^3 を貯留

中筋川ダムの防災操作前の貯水位 $H=72.1\text{m}$

